

レポート④

学童用万年筆 – 熾烈な競争 –



子ども用文房具売り場。各社、揃い踏みの様相。
この文具店では、万年筆は、↑印のタワーに集められています。



また、別の文具店では、ペリカン社製品だけで一棚占領。



ペリカン社の売れ筋商品。
インクカートリッジが、キャンディ壺のような容器に入れられて、
売られています。

レポート④

学童用万年筆 – 熾烈な競争 –



ラミー社製品は、学童用も、スタイリッシュ。



左手用(L・+1、0、-1)、
右手用(R・+1、0、-1)。
スタビロ社製品は、ペン先を
書きやすい角度にカスタマイズ
できます

レポート③で見た、万年筆用の空きスペース。このスペースに収まるためには、熾烈な競争がありそうです。

学童用の万年筆コーナーには、いつ見ても、親子がいます。父と娘、母と息子。子どもは、小学生です。熱心に、時間をかけて、選定しています。

私が、初めて自分専用の万年筆を手に入れたのは、高校に入学した時でした。叔父からの入学祝いでした。それを今も使っています。つい最近、修理に出しましたが、およそ40年間、私の「人生」を書き続けています。今では、この万年筆が、最良で最強の勝負ペンとなっています。

ドイツの親は、こういう一本を、子どもと一緒に見つけるのですね。

実際、アテンドして下さった文房具メーカーの方が、初めて買ってもらった一本を今も持ち歩いていると語っていました。

ドイツには、実に、多様な学童用万年筆が売られています。これを全部試し書きするとしたら、一日かけても終わらないと思いました。

大学生に万年筆を使わせて、気がついたことは、既に定着している書字フォームと、ペン先の角度が合わないことです。インクがうまく出ないので、書いた文字が醜くなります。だから、万年筆で書く快感が得られないようです。

それを押し切って書かせると、ペン先を痛めるか、手指が痛くなるか、万年筆で書くことを放棄するかです。万年筆の手ほどきは、大学生になってからでは、遅いのかも知れません。

スタビロ社製品には、この悩みを解消する万年筆がありました。ペン先の角度を、自分が書きやすい状態にカスタマイズできるのです。もちろん、右利き用と左利き用とがあります。

さすが、個性尊重、マイスターの国です。

万年筆に親しませる文化が鶏なのか、メーカーの勤勉さが卵なのか。